



# 能登半島地震からの教訓

牧野 明

昭和59年卒



はじめに

能登半島地震に際し全国の同窓の皆様にご心配をおかけしました。そして多くの励ましをいただき大変勇気づけられました。また東京歯科大学同窓会、同級の破竹会、そして多くの全国の同窓の方からも多大なお見舞い金まで頂戴しました。皆様からのご厚情は感謝の念に堪えません。本誌面をお借りして改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

「富山には地震は来ない」(はず?)

古くから「立山に守られている我が富山には地震が来ない」と言い伝えられていました。当然なが

ら(?)私も地震はどこか他人事のように思っていました。ところが...

地震発生～避難所へ

2024年1月1日午後4:10、かつて経験したことのない激しい揺れに襲われました。家が傾き道路がひび割れてその隙間から黄土色の水が噴き出す異様な光景の中、私は家族とともに身の回りのものだけ持って母校の小学校体育館に急いで避難しました。

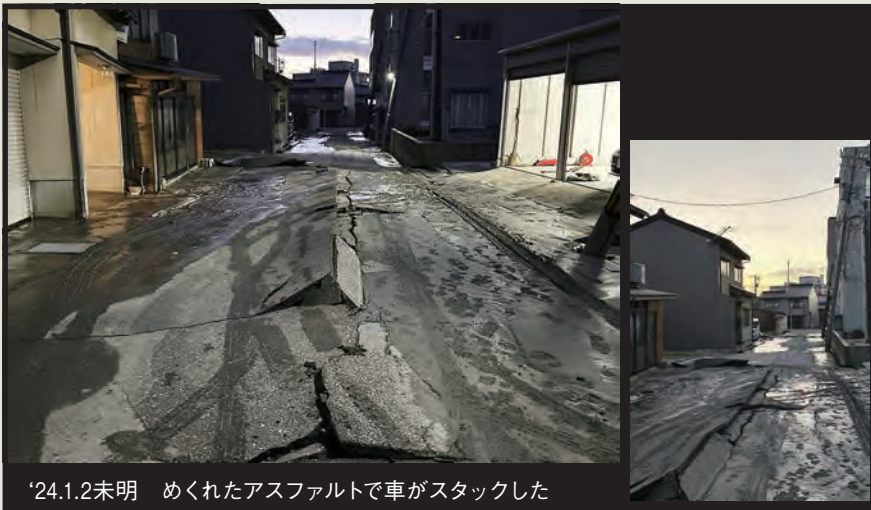
体育館で備蓄毛布を入れてあった段ボールの下で「みんな無事だっただけで儲けもんだ」「自分は『かわいそうな人』の役回りはごめんだ」「暗い顔を他人には見せない」「誰かに聞かれたら『大丈夫です』と何食わぬ顔して答えよう」と考えました。

翌朝、家を捨てる決意

翌早朝のまだ暗い中、体育館をそっと抜け出し、置いてきた車をとりに自宅に戻りました。余震に怯えつつ、めくれ上がった地面の角でスタックした車をジャッキで



1984年 東京歯科大学卒業 89期破竹会  
富山市山崎歯科医院勤務  
1988年 まきの歯科医院開業  
2000年 医療法人社団まきの歯科医院に改組  
2003年 スタディーグループ富山刃の会主宰  
2008年 日本歯周病学会専門医  
2015年 日本臨床歯周病学会指導医・  
歯周インプラント指導医  
2016年 日本歯周病学会指導医/臨床研修施設



'24.1.2未明 めくれたアスファルトで車がスタックした



我が家は傾き、隣家と支え合うかの様に…

上げて救出した頃には周囲が明るくなってきました。すると我が家と隣家が倒れ寄りかかっている恐ろしい光景が目に飛び込んできました。恐る恐る家に入ってみると床全体が傾いてしばらくいると気分が悪くなる、もはや住める状態ではなくなっていました。私はその場で「長期化はしたくない。60年近く住み慣れたこの家を捨てる。」と重大な決断をしたのです。生活の場ですが、幸いなことに私は市内に（『老後』のためにと）築25年の中古住宅を所有していたので、とりあえずそこに寝泊りできるためのものを2日間で搬入することにしました。幸い診療所は無事だったので、1月4日から診療を再開しました。

#### 被災調査～再審査請求

数日後、市により下された災害状況の判定は「準半壊」。被災状況の甚大さ順に「全壊」「大規模半



明治41年築  
基礎が崩壊～捨てる決意





心が弱っている時、  
同級生はありがたいものと思った



り心が弱っていました。

そんな時、同級生が顔を見せてくれたことはとてもありがたく、言葉にしなくてもこんな心強い励ましはないものだ、と実感しました。

また、当院まで能登の最激震地区から片道3時間半もかけて通院されている患者さんがいます。倒壊した建物の下になりそうなところ、危機一髪助かり、現在避難所に寝起きして当院まで通院されているそうです。その方から逆に私が励まされてしまい、ハッと我に返りました。自分よりもっとずっと過酷なめにあっている人が大勢いることを決して忘れてはならないのです。

壊」「中規模半壊」「半壊」「準半壊」「一部損壊」に区分されますが、準半壊は軽微な損壊とみなされ公的援助はほとんど受けられないのです。現状を鑑みればそれは到底納得できる判定結果ではありません。すぐに再審請求することを決意しました。

です。これで多くの援助が受けられます。

とはいえ未だ不本意な審査結果を甘んじて受け入れている人たちも多くいるわけですから自分の判定だけ覆ったと大きな声では言えないのは、心苦しいことでした。

### 公費解体に向けて

公費解体の申請は受理されたものの、それに先立って部屋にあるものを全て撤去することが求められました。明治41年に最初の建築がなされた我が家は、改めて数えてみると部屋数が17部屋、その各部屋に押入、他に納戸がいくつか。数十年来一度も使われていないまさに無駄な不用品がその各所に押し込められていました。全て

### 患者さんが教えてくれた！

突然の災害に市の対応が追いつかず誰もが不安で混乱していました。私も同様に焦り、苛立っていました。

そんな中、患者さんの中に『東北の震災後に被災状況判定の検査員の経験をした』という方がいました。その方が私のことを見かねて検査員が判定基準に使っている重要ポイントをそっと教えてくれたのです。それに従い「半壊」を目指してポイントとなる破損箇所を入念に調べました。そして迎えた再審査の結果は「大規模半壊」。3段階ものジャンプアップ

### 自分だけが被災者だと思ふな

被災した人は皆多かれ少なかれ心が荒み、疲弊しています。平静を保とうと強がっていた私もかな





大断捨離だった…  
次代に背負わずにすんだ

の休みの時間を費やし高岡市指定のゴミ袋100袋以上をゴミ集積場へ運搬、さらに整理業者にも依頼して3月末に家の中の整理はようやく終わりました。さすがに心身ともに疲れ果てました。

大断捨離だった

もともと私は「自分が死ぬ前にこの古い家にあるものの整理をしなければならない、それは相当厳しい作業になるのだろう」と考えていました。今回急に家の整理を余儀なくされたことは、そんな作業に背中を向けて先送りにしていた自分の背中を神様が後押ししてくれたのだ、『大断捨離』だったのだ、あんなに大変だった作業を次

の代に持ち越さずにすんで良かったのだ、と自分を納得させることにしました。

自宅整理の副産物

家財道具の整理をする中、100年ほど前の、重くて人力では動かすこともできない大きな古い金庫がありました。それを地元新聞社テレビ局が報道してくれたおかげで開けることができ、大正～昭和初期に曾祖父が行っていた事業の歴史的資料が日の目を浴びることになりました。震災がなければ見えなかったことでしょう。なお、出てきた資料は全て高岡市博物館に寄贈しました。

備えを！

地震の専門家によれば、今回の地震は終結したわけではなく、日本中のどこでいつまた地震が起こってもおかしくはないようです。地震は誰にとっても他人ごとではないのです。ハザードマップ、液状化マップ、揺れやすさマップ等を参考に自分の立ち位置を把握し、いざとなったときのことを想定しておくこと。とりあえず一次避難に備えて防災リュックを今一度点検することがすぐにもできる備えなのではないでしょうか。

被災とは極めて個人的な問題

震災はもはやいつ日本中のどこで起こってもおかしくはないことのようにです。しかし被災程度は人それぞれで、それを取り巻く周囲の状況も千差万別。今回改めて思い知ったことは、被災とは各々が個別対応を迫られるきわめて個人的な問題であること、そして私たち皆誰もがそれを乗り越えて生きていかなければならないということでした。



洋館風テラスに置いてあった金庫



大正～昭和初期  
先祖の事業や時代背景が  
明るみになった